

各 位

株式会社日本バイアウト研究所

『日本バイアウト市場年鑑—2007年下半期版—』 のご案内

謹啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。近年急成長を遂げている日本のバイアウト市場の動向および株式公開によるエグジットの動向を明らかにした『日本バイアウト市場年鑑—2007年下半期版—』を刊行致しましたのでご案内させていただきます。

【本書の特徴】

- ◎日本のバイアウト・ファンドの設立本数とコミットメント金額の推移、日本のバイアウト案件の動向（タイプ別、取引金額別、業種別、地域別、社長の就任形態別）、エグジット案件の動向、PIPEs(private investment in public equities)の動向を詳細に分析
- ◎株式公開を達成した案件の事例紹介およびファンドの取り組みに関する寄稿、経営者インタビューを収録

本書が、日本のバイアウト市場で活躍するエクイティ・プロバイダー、メザニン・プロバイダー、デット・プロバイダー、機関投資家、M&A アドバイザリー会社、エグゼクティブ・サーチ会社、経営コンサルティング会社、事業会社の経営企画担当・財務担当、弁護士、公認会計士、税理士などバイアウト実務に携わる方の役に立てれば幸いである。

発行所: 株式会社日本バイアウト研究所

発行日: 2008年3月24日

仕 様: A4版 205頁

価 格: 50,000円(税込)

主な内容: 目次を参照

【お申し込み方法】

申込書でのFAX送信かWebサイト上で申込書をダウンロードしメール添付でご送信下さい。申込受付翌営業日までにメール便での発送を開始致します。



株式会社日本バイアウト研究所

URL: <http://www.jbo-research.com/>

【お問い合わせ先】 jbori@jbo-research.com (担当: 杉浦)

目次

第I部 日本のバイアウト市場の動向

1.日本のバイアウト・ファンドの動向	3
1.日本のバイアウト・ファンドの動向	
1.1 日本のバイアウト・ファンドの設立本数とコミットメント総額の推移	
(1) 本調査におけるバイアウト・ファンドの集計方法	
(2) 日本のバイアウト・ファンドの設立本数とコミットメント総額の推移	
1.2 第一号ファンドと第二号ファンド以降の設立本数の推移	
1.3 2007年7月～12月に設立された主要バイアウト・ファンド	
1.4 2007年7月～12月に最終設定が完了した主要バイアウト・ファンド	
1.5 日本のメザニン・ファンドの設立状況	
2.日本のバイアウト案件の動向	9
2.1 日本のバイアウト案件の推移	
(1) 本調査におけるバイアウト案件の集計方法	
(2) 日本のバイアウト案件の件数と取引金額の推移	
2.2 タイプ別の日本のバイアウト案件の推移	
2.3 2007年7月～12月に成立した子会社・事業部門売却型の主要バイアウト案件	
2.4 2007年7月～12月に成立したオーナー企業の主要バイアウト案件	
2.5 2007年7月～12月に成立した公開企業の非公開化を伴うバイアウト案件	
2.6 取引金額別のバイアウト案件の推移	
2.7 業種別のバイアウト案件の推移	
2.8 トップ・マネジメントの就任形態	
2.9 地域別のバイアウト案件の推移	
3.日本のエグジット案件の動向	26
3.1 日本のエグジット案件の推移	
3.2 2007年7月～12月までの主要エグジット案件	
3.3 日本のバイアウト案件のエグジット達成率	
3.4 投資の実行からエグジットまでの期間	
4.日本のPIPE案件の動向	30
4.1 日本のPIPE案件の推移	
(1) 本調査におけるPIPE案件の集計方法	
(2) 日本のPIPE案件の件数と取引金額の推移	
4.2 タイプ別のPIPE案件の件数の推移	
(1) 2007年7月～12月に成立したダイベストメント型のPIPE案件	
(2) 2007年7月～12月に成立した事業承継型のPIPE案件	
(3) 2007年7月～12月に成立した成長資金調達型の主要PIPE案件	
(4) 2007年7月～12月に成立した再生資金調達型の主要PIPE案件	
(5) その他の案件	
4.3 取引金額別のPIPE案件の推移	
事例紹介①	
十勝グループにおける事業承継 MBI について	39
(執筆: J-STAR 株式会社 取締役パートナー 原田健一)	
事例紹介②	
事例研究: ワンビシアーカイブズ	49
～投資ファンド連合と事業会社株主との共同作業による事業価値改善～	
(執筆: 東京海上キャピタル株式会社 取締役社長 深沢英昭)	
研究論文	
レバレッジド・ファイナンスに関するアンケート調査—調査結果報告—	58
(執筆: 慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 貫井弘道)	

【概要】日本でバイアウト投資を実施している投資会社合計 70 社に対して実施したアンケート調査の結果 (回答数 27 社、回答率 36.8%) を分析し、バイアウト・ファンドおよびプリンシパル・インベストメントのファイナンス行動と投資行動に関する実態を明らかにしている。具体的には、資金調達側 (=ファンド側) から見たレバレッジド・ファイナンスに関する問題として、資金調達における基本方針、平均的なレバレッジ比率、資金調達先の選定基準 (資金調達額、金利、フィー、返済期限・返済方法、コベナンツ)、バイアウト後のリファイナンスおよびレバレッジド・リキャピタリゼーションの活用状況、レバレッジド・ファイナンスにおける格付、レバレッジド・ファイナンスの将来性と課題などに関する事項について分析している。さらに、クラブ・ディーラーや事業パートナーとの共同投資の実施状況などの実態も明らかにしている。

第II部 特集: 株式公開によるエグジットの動向

特集の概要

日本のバイアウト投資におけるエグジット方法はM&Aによる株式売却が最も多いが、近年は株式公開の件数が増加しており2006年1月～2007年12月までの2年間で13件となっている(図表1)。このような背景の中で株式公開を通じたエグジットの動向について明らかにする特集を企画した。今回の特集では、株式公開を達成した案件に携わったファンド・マネジャーの方に事例紹介をご寄稿頂いたのに加え、日本の株式公開市場の動向、株式公開によるエグジットを志向するバイアウト・ファンドの取り組み、投資先企業の経営者のインタビュー記事などを収録した。

図表1 日本のバイアウト市場におけるエグジット案件の推移(2007年12月末現在)

エグジット方法	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	合計
株式公開	0	1	1	2	3	6	7	20
M&Aによる株式売却	2	1	3	12	21	19	13	71
第二次バイアウト	1	0	2	4	3	7	3	20
株式の買戻し	0	0	1	3	2	1	2	9
その他の戦略的売却	1	2	2	4	5	7	4	25
合計	4	4	9	25	34	40	29	145

(出所) 日本バイアウト研究所。

【市場動向】

近年の日本のIPO市場の動向.....89

(執筆者: 監査法人トーマツ IPO支援室 シニアマネジャー 津村陽介)

【事例紹介】

ゴルフパートナーにおけるハンズオンの事例～ファンドによるIPO支援の意義～.....99

(執筆者: 日興アントファクトリー株式会社 シニアマネージングパートナー 飯沼良介)

シーズメンのMBOから株式公開まで～資本と経営の調和を目指して～.....109

(執筆者: 日本プライベートエクイティ株式会社 代表取締役社長 法田真一)

日本マニュファクチャリングサービスのMBOから上場まで～起業家精神と全社一体の力～.....123

(執筆者: 株式会社ジャフコ 事業投資運用本部長 加納恒典)

【ファンドの取り組み】

みずほMBOファンドのエグジット戦略～IPO中心のエグジット～.....137

(執筆者: みずほキャピタルパートナーズ株式会社 代表取締役 大畑康寿)

【インタビュー】

キトーの経営改革と再上場への取り組み.....147

(株式会社キトー 代表取締役社長 鬼頭芳雄氏)

カーライルによるキトーへの投資と経営改善支援.....159

(カーライル・ジャパン・エルエルシー マネージング ディレクター 山田和広氏)

バンテックのM&A戦略と株式公開.....171

(株式会社バンテック 代表取締役社長 山田敏晴氏)

株式会社バンテック 専務執行役員 鈴木康昭氏)

【研究論文】

日本のバイアウト投資における株式公開によるエグジットの特徴.....181

—公開前の資本政策と公開後の売却方法を中心として—

(執筆者: 株式会社日本バイアウト研究所 代表取締役 杉浦慶一)

【概要】 2007年12月末までに株式公開を通じてエグジットを達成した20件のバイアウト案件の事例を取り上げて、株式公開前の資本政策、株式公開直前のバイアウト・ファンドの持株比率、公募と売出しの概要、初値と騰落率、バイアウト・ファンドのロックアップ期間、株式公開後の売却方法について比較・分析を行っている。